

【エクアドル内政・外交：2012年2月】

1. 概要

- 2月 5日 コンコルディア市の帰属権を巡る住民投票
- 13日 閣僚交替
- 15日 エル・ユニベルソ紙訴訟最終審判決
- 20日 「偉大なる兄弟」訴訟：第一審判決
- 23日 白立忱・中国全国政治協商会議副主席の当国訪問
- 29日 ペルー・エクアドル首脳会合

2. 内政

(1)閣僚交替

13日、コレア大統領は大統領令第1059号を以て、スタンレイ・ベラ(Staynley Vera)農牧水産漁業大臣の辞任を承認し、サンティアゴ・レオン(Santiago Leon)生産雇用競争力調整大臣に兼務するよう命じた。

(2)コンコルディア市の帰属権を巡る住民投票

5日、エスメラルダス県とサント・ドミンゴ県の県境に位置するコンコルディア市では、同市の帰属権に関する住民投票が実施された。

同日午後8時頃、パレデス(Domingo Paredes)選挙管理委員会(CNE)委員長は、「有権者数2万9089票中、有効投票数2万4448票(投票率84%)。うちサント・ドミンゴ県に帰属するべきと答えた得票数は1万5084票、エスメラルダス県に帰属するべきとの得票数は6456票、白票351票、無効票1343票であった(ママ)」旨発表した。

(3)エル・ユニベルソ紙訴訟

15日午前9時頃より、最高裁(CNJ)第3刑事法廷に於いて、エル・ユニベルソ新聞社訴訟に関する弁論が12時間以上にわたり行われた。法廷には多くの閣僚及び国会議員など政府関係者が傍聴に詰めかけた。その後16日午前0時半頃、メリノ(Wilson Merino)判事、ブルム(Jorge Blum)判事、イニゲス(Paul Iniguez)判事は第一審・第二審判決を追認する判決文を読み上げ、カルロス・ペレス社主、セサル・ペレス役員、ニコラス・ペレス役員、パラシオ元記者に対し禁固刑3年並びに総額4千万ドルの賠償金を支払うよう命じた。提訴から376日を迎え、今般判決により刑が確定した。

27日、コレア大統領はエル・ユニベルソ紙訴訟で免赦を行う演説を行い、エル・ユニベルソ紙との訴訟での闘い、プレスとの対立、勝利につき説明した。

(4)「偉大なる兄弟」訴訟

20日、コレア大統領が「偉大なる兄弟」の著者であるファン・カルデロン氏、クリスティアン・スリタ氏を名誉毀損で訴えていた第一審判決について、メルセデス・ポルティージャ(Mercedes Portilla)ピチンチャ県地裁民事第5法廷判事は原告側の精神的苦痛を認め、被告に対し賠償金200万ドル(各100万ドル)を支払うよう宣告した。また同様に、原告側弁護士の費用約10万ドルも負担するよう命じた。

(5)大雨による一部地域の危険度引上げ

17日、国家危険管理庁は、国立気象物理学研究所の観測に基づき、エスメラルダス県、マナビ県、グアヤス県、サンタ・エレナ県、エル・オロ県、ロス・リオス県、サント・ドミンゴ県、ガラパゴス諸島、カニヤル県、アスアイ県、チンボラソ県、コトパクス県の全国12県の危険度

を黄色に引上げた。

3. 外交

(1) 外務省の外交行囊不正使用について

9日、パティーニョ外相及びアルブハ(Marco Albuja)外務省法務調整官は、1月11日に発送された外交行囊10箱中8箱から総量40kg相当のコカインが発見された旨公表した。右はイタリア宛のRuda Tortuga劇団ディレクターのロア氏(Christian Loor)の所有物で、箱の中にはエクアドルをプロモーションする資材一式が含まれていた。

ロア氏はエクアドルの観光促進、ガラパゴス諸島や環境保全の重要性を意識させることを目的に、イタリアでの実演に向けて製品サンプルを搬送すべく当国外務省に申請していた。

右申請は、運送費を負担したロア氏によれば、器具・衣装・舞台の移動のために、エクアドル税関での事務的問題を考慮し行われた。発送は通常の決まった手続きのもと行われ、種々の公印、責任者のサインがなされ、麻薬検査もなされたが何も見つからなかった。通常の決まった手続き後、荷下ろしの署名の前に荷物は責任ある企業によって送られた。

1月17日、パティーニョ外務大臣はイタリアから電話を受け、イタリア警察の検査の際に外交行囊の中から麻薬が見つかった旨知らされた。同外相は捜査、逮捕の実施に向け然るべくプロセスを遂行するため、イタリア警察とエクアドル大使館との合意に基づきこれまで公表されなかったと指摘した。現在、エクアドルから発送した者、及びイタリアで受領した者の二名が逮捕された。彼等は在イタリア・エクアドル大使館や外務省の者ではなく、そこで働いていない。

パティーニョ外相は、外務省は対外的なエクアドルのプロモーションのため、あらゆるイニシアティブに協力の用意があるが、本件のような残念な事態が起こったのは初めてである。また公開捜査に入ったこともあり追加的情報を先に出すことは出来ず、後日に進捗状況につき公表できようと言った。

(2) 対ペルー関係

29日、コリア大統領はペルー北部チクラヨを訪問、ウマラ・ペルー大統領と二国間首脳会談を行った。インフラ事業、流通、環境、産業、社会、文化、治安、国防など種々のテーマにつき協議した。

コリア大統領は「会合は儀礼行事ではない。両国の国境住民のために前進していかねばならない。今般会合で現在の特別な関係をさらに深め、永続的且つ過去に戻ることはないようにしなければならない」旨述べた。

一方、ウマラ大統領は、両国で特に経済、通商、環境、社会、教育、医療などテーマにつき、共同で取り組むことが重要だと強調した

(3) 対中関係

23日、コリア大統領は大統領府に於いて白立忱(Bai Lichen)中国全国政治協商会議副主席と会談した。

コリア大統領は今般訪問に満足の意を表明し「現在の中国、千年の帝国、革命のプロセス、指導者及び現在の発展プロセスに感服している」旨述べた。

白立忱副主席はコリア大統領に対し、「この素晴らしい土地を訪れば、エクアドル国民の中国国民に対する親愛の情を感じることが出来る。今般会談ができ欣快である」との胡錦濤国家主席のメッセージを伝え、「エクアドルは大きな発展の可能性、綺麗な景観、勤勉な国民を有している。両国の友好がいつまでも続くことを期待する」旨強調した。